

目指す学校像	学校・家庭・地域のコミュニケーションをもとに、児童一人ひとりの学力や体力を向上させ豊かな心を育むことができる学校
--------	--

重点目標	1 GIGAスクール構想を推進し基礎基本の徹底とPISA型読解力の向上 2 いじめ未解決ゼロと安全・安心な環境づくりの推進 3 コミュニティ・スクールの推進・充実 4 Well-being (一人ひとりの多様な幸せ) の実現に必要な指導力の育成
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○昨年度、基礎学力定着プログラム、課題解決応援シートの活用を学力向上策の一つとして掲げ、朝の自習時間等で活用し学力向上を図った。 ○昨年度 PISA 型読解力についての児童アンケートを実施し、児童の実態把握に努めた。 (課題) ○基礎学力定着プログラム、課題解決応援シートの印刷や丸付け等の作業に時間がかかり十分な活用ができなかった学年があった。 ○学力向上ポートフォリオに見られるように、情報の取り出しや資料から自分の考えを構築する、本が好きということについては更なる定着が必要である。	・学力向上に向けた情報端末の活用、授業改善 ・PISA 型読解力の向上	①「ドリルパーク」「スタディーサプリ」の学習履歴を活用し、児童の学習内容の理解を把握し児童の学習の進め方を支援する。 ②よい授業の項目から改善点1つ、自信点1つをもって授業を展開する。 ①学校課題研修の国語科で年間6本の授業研究会を実施し、協議会での成果と課題を追究し日々の授業に生かす。 ②NIE (新聞を活用した教育) の推進校として新聞を授業の中に取り入れる。	①学校評価に関わる児童アンケートにおいて先生は工夫して授業をわかりやすく教えていると回答する児童の割合が97%以上となったか。 ②国語、算数について評価テスト正答率80%以上とすることができたか。 ①自校の実態調査アンケートにおいて、児童の「文章や資料から必要な情報を取り出すことができる」88%、「今まで習ったことや生活経験などと結びつけて、自分の考えをもつことができる」86%「本や文章を読むことが好き」83%となったか。	① 先生は工夫して授業をわかりやすく教えていると回答した児童の割合は96%。 ② 評価テストの正答率は国語85%・算数80%、 ① 「文章や資料から必要な情報を取り出すことができる」76% 「今まで習ったことや生活経験などと結びつけて、自分の考えをもつことができる」81% 「本や文章を読むことが好き」78%	A	ICT 機器を使った授業の一層の工夫に努める。例えばプロジェクターの有効活用を一層進める。 指導者を招聘しての研究授業と協議会を引き続き続けていく。 NIE (新聞を活用した教育) の推進校としての研究の成果をまとめ、それを授業実践に結びつけていく。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 三橋小学校は PC 端末の活用率が高いと聞いている。その結果、4年生以上は全員がパワーポイントを使えるようになってきている。このことは児童の自信になる。新しい視点の読解力 (PISA 型読解力) の向上もこれからの児童には必要な力であろう。その成果も出している。
2	(現状) ○いじめ解決にむけ、いじめ対策委員会等を活用し、いじめ問題に対応した。 ○昨年度、校庭遊具の不良箇所が見つかった。また、安全点検では毎月2、3件の不良箇所が見つかった。 ○車の交通量が多い箇所もあり、安全指導の徹底を図ってきたが、昨年度1件の交通事故 (軽傷) があった。 (課題) ○保護者からの相談でいじめが発覚することがあり、いじめの解決に時間を要する案件も見られた。 ○校庭の遊具は雨風にさらされているため、常に点検が必要である。	・さいたま SDG s 教育の充実 (主に人権教育) ・安全指導と安心安全な環境整備の充実	①心と生活のアンケート・本校独自アンケートを計4回実施し結果に基づいて迅速に対応する。 ②いじめ対策会議での記録と全職員の共通理解を図る。 ③「嫌な気持ち、悲しい気持ちで帰らない」を呼びかけいじめの早期発見、解決を図る。	①学校評価に関わる児童アンケートにおいて、「いじめ」なく、友達と仲よく過ごしていると回答する児童の割合が98%以上となったか。 ②いじめの解決が100%となったか。年度をまたぐ案件は「見守り中」になったか。	① 「いじめ」なく、友達と仲よく過ごしていると回答する児童の割合94% ② 12月末でいじめの解決は76%、見守り中が4件これは市の方針で3か月間の見守りが必要なためである。現在のところ見守り案件も再度のいじめは報告されていない。このままであれば100%解決。	A	いじめの早期発見に努める。そのためにも児童と教師の信頼関係の構築に努め、児童の心配なことがすぐに担任に報告できるようにする。また、保護者との連携を密にしておく。 生徒指導委員会やいじめ対策会議を通して引き続き組織としていじめに対応していく。	いじめの解決に向けよく取り組んでいる。学校で解決が困難な案件は学校運営協議会のメンバーでもある民生委員、主任児童委員とも情報共有をしていく必要がある。 児童と同時に我々大人の交通安全への意識を高めることも大切。新型コロナウイルスが落ち着き3年ぶりに交通安全の旗振り講習会を再開する予定である。そうしたことで交通安全への意識を高めていく。
3	(現状) ○コロナ禍の中、情報を共有するため、紙上による開催、メールによる情報発信を実施した。 ○授業参観、懇談会は YouTube で発信し、学校の様子を提供した。 ○学校運営協議会の準備委員会は通常の会議と紙上による開催を行った。 (課題) ○保護者・地域への連絡が遅れたり、その後のアフターフォローが不十分であったりする事案も見られた。 ○地域の方は学校に対して協力的であるが、さらに一層の協力体制を構築していく必要がある。	・迅速・丁寧な情報発信 ・保護者、地域の一層の学校への協力	①その日起こったことはその日のうちに保護者に連絡し、課題解決に向け保護者と連携する。 ②課題が解決した後の保護者への連絡を実施する。	①学校自己評価におけるアンケートで、学校は保護者の方へ、親切・迅速・丁寧な対応していると回答する保護者の割合が90%以上となったか。	学校は保護者の方へ、親切・迅速・丁寧な対応していると回答する保護者の割合が92%	A	新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた場合は「直接会って話をする」「まず動く」「できない理由ではなく、できる方法を考える」この3つを一層実践していく。	学校運営協議会で熟議し決定した目指す児童像の育成に向けて地域、家庭も協力していく。特にあいさつができる児童が増えてきてよい。 管理職が自治会の防犯パトロール協議会に参加するなど地域と学校の関係をよりよくしていこうという姿勢が伺われる。地域の防犯パトロールは100名以上が登録しコロナ禍でも活動している。
4	(現状) ○ICT の活用について、学年の ICT 担当者 (エバンジェリスト) を中心に研修を進めてきた。 ○ICT の利用度は市の平均を上回っている。 ○学級担任の約3分の1が今年度着任の教員である。 (課題) ○教員の ICT リテラシーに差が出てきている。 ○今年度着任した教員の経験を生かすとともに、本校の学校課題研修についての理解と実践が必要である。	・学校課題研修の充実を図り実践的な指導力の向上	①6回の授業研究会を実施し、学年として学校課題に取り組む。 ②管理職による週2回の授業参観を実施し、その後の個別指導を行う。 ③情報端末の学年研修会をエバンジェリストが中心に週1回実施する。	①学校評価に関わる教職員アンケートにおいて指導法の工夫や改善が行われていると回答する教職員の割合が95%以上となったか。 ②学校課題研修を通して、授業力の向上に生かすことができたと回答する教職員の割合が80%以上となったか。	① 指導法の工夫や改善が行われていると回答する教職員の割合が90% ② 学校課題研修を通して、授業力の向上に生かすことができたと回答する教職員の割合89%	A	研究授業後の協議会についてさらに工夫し、多くの教員の意見交換ができるように引き続き努める。 今年度途中からOJT研修を実施したが、来年度も継続していく。	若手教員が多い中での授業力の向上は引き続き実施していく必要がある。OJT研修も無理のない範囲で進めていく。 教員のマナー、例えば挨拶、電話での接遇等についても指導していく必要があろう。